



ビジネスセンター岡山株式会社



本社：岡山県岡山市北区島田本町一丁目5番37号
 業種：ITサービス業
 従業員数：110名（令和元年5月1日現在）
 設立：1973年
 資本金：1,500万円
 拠点：岡山・京都・東京
 URL：https://www.bco.co.jp/
 経営理念：ビジネスセンター岡山(株)は優れた技術と想像力により
 社会のコンピューター活用に奉仕する。

BCP策定に取り組まれたきっかけ

- ・きっかけはデータセンターの運用について改めて考えたこと。データセンターには社員が常駐し**どんな時も事業を継続してきたが、もし災害等で常駐メンバーに何かあった時にどう対応するか**事前に決めていないことに気づいた。
- ・同時期に（公財）岡山県産業振興財団でBCPモデル企業を募集しており、「**まずはやってみよう！**」という気持ちでスタートした。
- ・当時、財団から提供されたフォーマットは、項目がかなり細かく設けられていた為、できることから取組を始めた。

BCPの特徴・こだわりポイント

- ・やはり**中核事業を絶対に止めないこと**を意識した。**IT業は「人が要」**。とにかく従業員が無事に、安心して、働き続けられることが重要と考えている。
- ・そのために**自社独自の『安否確認システム』を開発**。社内での運用マニュアルも策定した。システム開発して終わりではなく、稼働、定着していることが何よりも大事であると思い、毎年防災の日を実施している防災訓練と併せて、**安否確認システムも訓練を実施**。訓練メールを発信し、全従業員から返事があるまで追いかけている。（役員、他社への出向者、京都・東京の営業所にいる社員含む）
- ・BCP運用においては、予算（コスト）面に問題がある為、全ての項目にコストをかけて整備するのは難しいと思い、せめてソフト面だけでも徹底しようと考えている。
- ・入退社がある度にシステム整備をしなければならず大変な部分もあるが、いざ何か起きた時に初めて使うのでは意味がないので、毎年訓練を行っている。
- ・物理的な面では、基本的なことであるが**社内サーバー&経理システムはビル2階へ移動**させている。また、従業員の安全を考慮し、本社ビルにおける各階への防災責任者の設置、救命救急訓練、消防署を招いての防災訓練など、徐々にではあるが様々な取組をアップデートしてきている。
- ・BCPの内容ではコストイメージまで算出。災害や事件等が起きる度に、「**自社に置き換えた時に大丈夫か？**」と考えて、都度BCP策定内容やルールをアップデートしている。
- ・ISMS認証を取得する過程においても、リスクを洗い出し対処するといった作業やサプライチェーンへの影響などを考えることがあり、BCPが織り込まれているように感じた。

BCP策定のメリットやBCP策定・運用にあたり苦労した点

- <メリット>
- ・毎年の安否確認システムの訓練、防災訓練によって、**従業員の意識向上**に繋がっている。
- <苦労した点>
- ・IT業ということもあり、多くの社員が取引先企業へ出向している為、**出向者については出向先企業のルール（出向先企業のBCP）との調整が難しい。**

感染症BCPについての取り組み

- ・コロナ禍では、いつでもどこでも見られるグループウェアを活用。コロナ対策や何かあった時の対応などを掲示板にて配信することによって、全従業員がチェックできるようになっている。
- ・普段から従業員にBCPの意識が醸成されているので、感染症についても自然と織り込むことができている。



被災時の備え、出来てますか？
BCP安否確認システム

